

改めて考える精度保証

◎安東 摩利子¹⁾

社会医療法人財団白十字会 佐世保中央病院¹⁾

医療法改正によって検体検査における精度の確保が求められるようになり認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師は、臨床化学、免疫化学のみならず検査室全体の精度保証体制の確立と維持管理を担う役割としても期待されている。

また、本年度より新しい日臨技品質保証施設認証制度も開始となり臨床検査のすべての分野において誰がいつどこで検査をしても同じ結果が出るような精度が求められるようになってきた。この品質保証施設認証制度での新たなポイントとしては、是正改善やリスクマネジメントがより重要視されていることがあげられる。是正改善を行う為には後から振り返りができるように日々の業務を手順化し実施記録を残すことが重要と考える。しかし、内部精度管理だけではなく検査前工程から検査後工程までの手順書を作成し、実施記録に残すことは作業量の増加につながる場合もあり、日々悩まれている施設も多くあるかもしれない。また、働き方改革の実現に向けて長時間労働の削減や決められた日数の有給取得など数年前より病院内で働く時間は減少している中で、質を維持した精度保証に取り組むためには業務見直しや工夫をしながら取り組まなければならない。

臨床化学や免疫化学分野は臨床検査の中で最も自動化が進んでいる分野であるが、その分ブラックボックス化され是正改善を行う際に根本原因を特定できずに再発を起こしてしまうこともしばしば見られる。測定原理、反応過程、機械の特性など基本的な知識、技術を身につけ、検査データを読む力を向上させていくことは質を維持した精度保証を行う上では欠くことができない。

今回は認定臨床化学・免疫化学精度保証管理技師の立場から精度保証の概要と是正改善やリスクマネジメントを行う上でのポイントをお話しできたらと考える。加えて、働き方改革の実現の中でどのようにしたら質を維持した精度保証ができるかまだまだ模索中ではあるが現状の課題も含めて少しだけお話しできたらと考える。